

2020/10/20

財務省財務総合政策研究所

人口動態と経済社会の変化に関する研究会 第一回報告

# 「日本で少子化対策はなぜ失敗したのか」

— コロナ後の家族は変わるのか? —

山田昌弘 Masahiro Yamada

(中央大学・文学部・教授)



## 0. 自己紹介

山田昌弘 1957年生まれ、62歳

家族社会学・研究者、東京大学大学院修了卒、  
東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大学教授  
パラサイトシングル、格差社会、婚活 の名付け親

研究領域 家族(結婚、恋愛) ジェンダー、若者を 「お金」と「愛情」の領域から研究している

近著に『日本は少子化対策になぜ失敗したのか』(光文社新書)『結婚不要社会』(朝日新書)

公職 内閣府男女共同参画会議専門委員、東京都社会福祉審議会委員  
北区男女共同参画審議会委員

0. はじめに

## 社会学者ほど世間に嫌われる商売はない

➤ ユリウスカエサル 「人は見たいものしか見ない」

➤ 社会学の精神 「現実をありのままにみることをその生業とする」

偏見や常識を脇に置いて現実を見る

(記述し、分析し、原因を見つけ、未来を予測する)

➤ **社会学 = 人間が見たくもないと思っている 社会の側面を見せてしまう学問**

(学者は、世間の人から嫌われる存在である 自戒)



0. はじめに

## コロナ後の結婚、出産？

### ■ 今年前半の傾向

\* **結婚は大きく減少** 昨年は令和婚（5月1日）、並び婚（11月11日）で増

今年 1-6月の結婚数大幅減少（2並び婚-令和2年2月2日は多かったが）

2020年前半 270129組 2019年前半 316628組 2018年前半 299450組

\* **出産減少**（昨年8月の決定） **コロナの影響が出るのは来年1月以降**

現在減少中 今年から来年の前半 大きく減少しそう

2020年前半 430709人 2019年前半 439533人 2018年前半 468231人

\* **離婚も減少**

調停や裁判が非常事態宣言で延期された？

離婚している経済的余裕がない？

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-0 諸外国の日本を見る目

### 日本の少子化の進展

合計特殊出生率1.5以下が25年以上続く、人口減少

\* 欧米のジャーナリスト、研究者

「なぜ、日本は対策をしなかったのか？」

← フランスや北欧は回復傾向

\* 東アジアのジャーナリスト、政府関係者、研究者

「日本のようにならないために、どうすればよいのか」

← 現在、日本以上の少子化が進んでいる

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-1. 日本の少子化対策失敗の原因

### \* 出産、子育て要因の日本的特徴

- 日本の少子化対策が、事実上失敗に終わっているのは、未婚者の心に寄り添った調査、分析、政策提言ができていなかったのではないかと。多様な未婚者の生の声を聞くことを怠っていたのではないだろうか。
- 「大卒、大都市居住、大企業勤務」に偏った政策が行われ、「非大卒」「地方居住」「中小企業労働者、非正規雇用者、自営業者、フリーランス、(100万人以上いる飲食を伴う接客業従事女性)」の声が届いていないのでは
- (男女共同参画も同じ構図)

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-1. 日本の少子化対策失敗の原因

\* 日本における従来の調査、分析、政策提言の二つの問題点

- 1) 欧米に固有の慣習や価値意識を、日本に当てはまるものとして前提にしたこと。
- 2) 日本人に特徴的な慣習、価値意識を考慮しないこと。

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-1. 日本の少子化対策失敗の原因

### 1) 欧米固有の慣習や価値意識の前提

- ① 子は成人したら親から独立して生活するという慣習  
(若者の親からの自立志向)
- ② 仕事は(女性の)自己実現であるという意識  
(仕事＝自己実現意識)
- ③ 恋愛感情(ロマンティック・ラブ)を重視する意識  
(恋愛至上主義)
- ④ 親の子育て責任は成人までという意識  
(成人＝子育て終了)



# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-1. 日本の少子化対策失敗の原因

### 2) 日本人に特徴的な慣習、価値意識

#### ①「リスク回避」傾向

#### ②「世間体重視」

- ほとんどの日本人にとって、生活上のリスクを回避すること、そして、世間体を保つことの優先順位が高い。
- 結婚、子育てには「生活上のリスク」がつきまとい、結婚相手は、周りの人の関心を引き起こし、「世間体」に直結する。
- それゆえ、日本人は、生活リスクが高く、世間体を保てないような結婚、子育て状況を回避しようとする。

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

- 日本の家族意識、価値観の文化的背景の相違点
  - ① パラサイトシングル 自立志向の弱さ
  - ② 女性にとって、仕事による自己実現という意識の弱さ
  - ③ 恋愛感情(ロマンティック・ラブ)の弱さ
  - ④ 子どもの将来に対する「責任意識」の強さ  
—「子どもにみじめな思いをさせたくない」

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

### ①パラサイトシングル 自立志向の弱さ

- \* 欧米、一人暮らし原則 → 結婚や同棲は経済的に楽になる手段
  - \* 日本(そして、東アジア諸国や南欧)
    - 結婚までは親と同居するのが当然
    - 子(特に娘)の自立志向は弱く、特に女性の自立は不要との意識
      - ー 日本では、成人未婚者の約7-8割が親と同居
- 同棲、結婚は、生活水準を下げるイベント

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

② 女性にとって、仕事による自己実現という意識の弱さ

- \* 欧米、仕事を持って経済的に自立すること 女性の自己実現
- \* 日本 仕事による自己実現という考え方 — 一部の女性のみ  
大多数の未婚女性 非正規雇用、一般職 →  
自立手段にならない、自己実現とならない( ← コース制)
- 専業主婦志向、家計は夫の収入で賄うことは当然という意識  
消費、趣味領域にこそ自己実現がある
- \* 子どもを立派に育てることが、女性の自己実現という強い意識  
(自己実現 他人からの肯定的評価、賞賛)

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

### ③ 恋愛感情(ロマンティック・ラブ)の弱さ

- \* 欧米、恋愛感情(性欲の充足)が価値づけられている
- 恋愛感情、性的欲求が、パートナーを求め、一緒に生活することを動機付け 恋愛活発、同棲が多い
- \* 日本、カップルの恋愛感情は重視されない(中国など東アジアも)  
21世紀以降。男女交際が不活発化  
恋人がいらないと回答する人増大している。  
夫婦でもセックスレスが増大している

日本社会 恋愛感情はカップル以外で

(結婚してもキャバクラ風俗通い、アイドルなどバーチャル恋愛)

表 明治安田生命生活福祉研究所2017年実施「男女交際・結婚に関する意識調査」  
 ネットモニター(18-34歳 表示は30代前半のみ、サンプル10304)

次のような関係を恋愛対象にしていますか

A ペット B アイドルやタレント、スポーツ選手など C アニメ、ゲーム等のキャラクターなど  
 D キャバクラ・メイドカフェ・ホストクラブなど  
 E 性的サービス産業

	A	B	C	D	E	(1つ以上)
30代前半未婚男性	3.3	12.5	13.8	9.8	13.7	(30.8)
既婚男性	4.1	11.8	5.8	13.1	14.6	(28.4)
未婚女性	7.2	16.1	12.0	0.8	0.8	(27.1)
既婚女性	2.2	13.9	7.4	1.4	1.1	(19.9)

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

- ④ 子どもの将来に対する「責任意識」の強さ  
–「子どもにみじめな思いをさせたくない」
  - \* 欧米、子どもを成人させて独立させることまで 親の責任
  - 子育ての手間は子どもが成人まで。高等教育費用は負担しない。子育て費用は、子どもが小さい内で済む。多数の子どもを育てても、成人までであれば、予測が立つ。
  - \* 日本、子どもへの責任意識強い。(中国など東アジアも)
  - 高等教育などの費用は、親負担当然、
  - 子どもに、「将来よりよい人生を送って欲しい(ポジティブ面)」「みじめな思いをさせたくない(ネガティブ面)」という親の感情に裏付けられている。

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

### \* 欧米まとめ

- 欧米の少子化対策の前提、
  - ①結婚、同棲前は一人暮らしであること。
  - ②女性は仕事での自己実現を求める存在であること。
  - ③恋愛が盛んで、恋愛感情があれば一緒に暮らしたいと思うこと。
  - ④子育ては成人すれば終了ということ
- 「女性の両立支援」が効果をもつ  
子どもを育てながら働き続ける条件を整えればOK



# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-2 欧米モデル適用の陥穽

\* 日本まとめ

- ① 結婚前は親と同居している。同居(依存)は、非難されることはない。
  - ② 仕事による自己実現を目指す女性は少数である。仕事を続けることよりも、豊かな生活をし、子どもを立派に育てることに生活上の価値を置く。
  - ③ 恋愛感情は重視されない。愛情であれば配偶者より子ども、夫婦であれば愛情よりも経済生活を優先する。
  - ④ 将来にわたる子育ての責任がかかり、子どもの将来を優先する。恋愛感情に身を任すよりも、これから育てるであろう自分の子どものために第一に考える。
- これらの事情があるために、「両立支援」を中心とした少子化対策は、「空振り」に終わる。

# 1. 少子化の日本の特徴

## 1-3. 日本社会のリスク回避(安定)志向、世間体意識

- 日本特有の社会意識

- ① 将来の生活設計に関するリスク回避意識

- 日本人は、将来にわたって中流生活を維持することを至上命題にしている。
- 「中流生活から転落するリスク」のある結婚はしない

将来、中流生活が送れないリスクのある可能性があるとして、結婚を回避し、男女交際も回避する

(恋愛、結婚、出産、子育ては日本人にとって一連のイベント)

(「奨学金を借りている人とはつきあってはいけません」)

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-3. 日本社会のリスク回避(安定)志向、世間体意識

- ② 世間体意識 — 「人からのマイナス評価を避けようとする意識」
- 日本社会に生きる日本人は、「世間体」を保つこと＝「人並みの中流生活」をして、周りの人からみて恥ずかしくない生活をするのが最優先事項
  - 仲間集団、親戚からみてレベルが落ちたと評価される結婚、子育ては避ける。
  - 特に、子どもにつらい思いをさせるような子育て環境は、恥ずかしいから避ける  
「お金がないから子どもに買ってあげられない」避けたいと思う

# 1. 少子化の日本的特徴

## 1-3. 日本社会のリスク回避(安定)志向、世間体意識

① 将来の生活設計に関するリスク回避意識

② 世間体意識 — 「人からのマイナス評価を避けようとする意識」

「将来、結婚して、子どもを育て、老後まで、中流生活が送れない = 他人に比べて見劣りがする 可能性が少しでもあれば、結婚しない。そういう人が現れるまで親元で待つ」

\* 1990年以降、この不安が広がる → 未婚化、少子化  
2020年のコロナ渦によって増幅している

## 2. 日本の少子化の要因 (適度にスキップします)

### 2-1. 日本の少子化の実態

#### ① 合計特殊出生率(女性一人当たり産む子ども数)の減少

2019年 1.36 (1973年 2.14)

#### ② 出生数の減少

2019年 86万5234人 (1973年 209万人 1949年 270万人)

#### ③ 人口減少

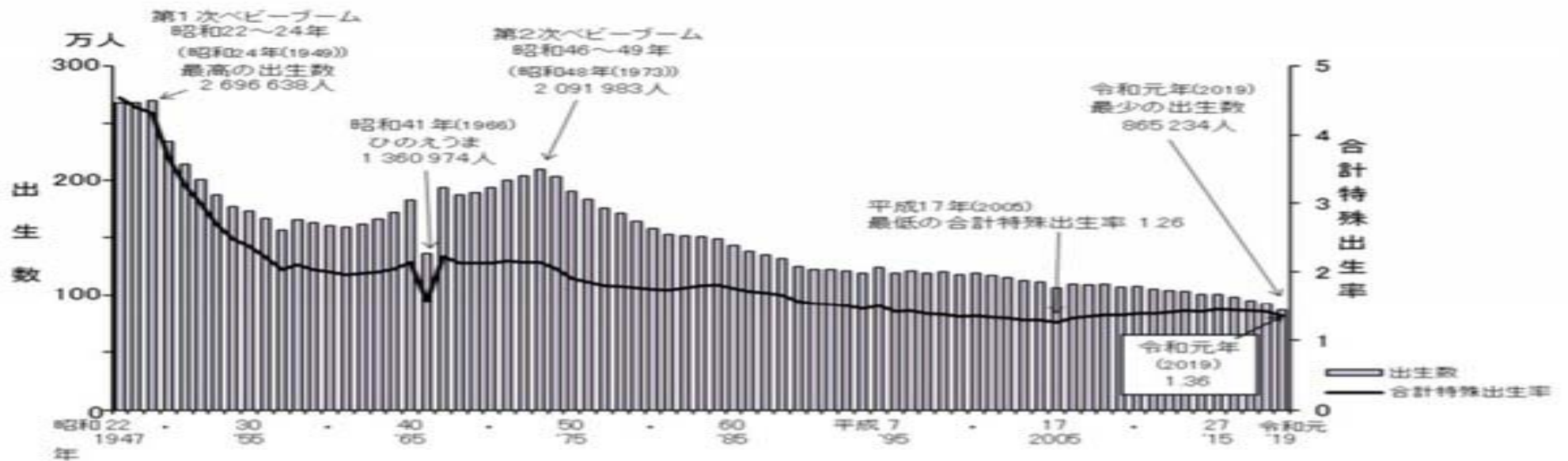
2019年 約51万6千人減少(自然減) (死亡数 約138万人 )  
(2008年より自然減)

## 2. 日本の少子化の要因

### 2-1. 日本の少子化の実態

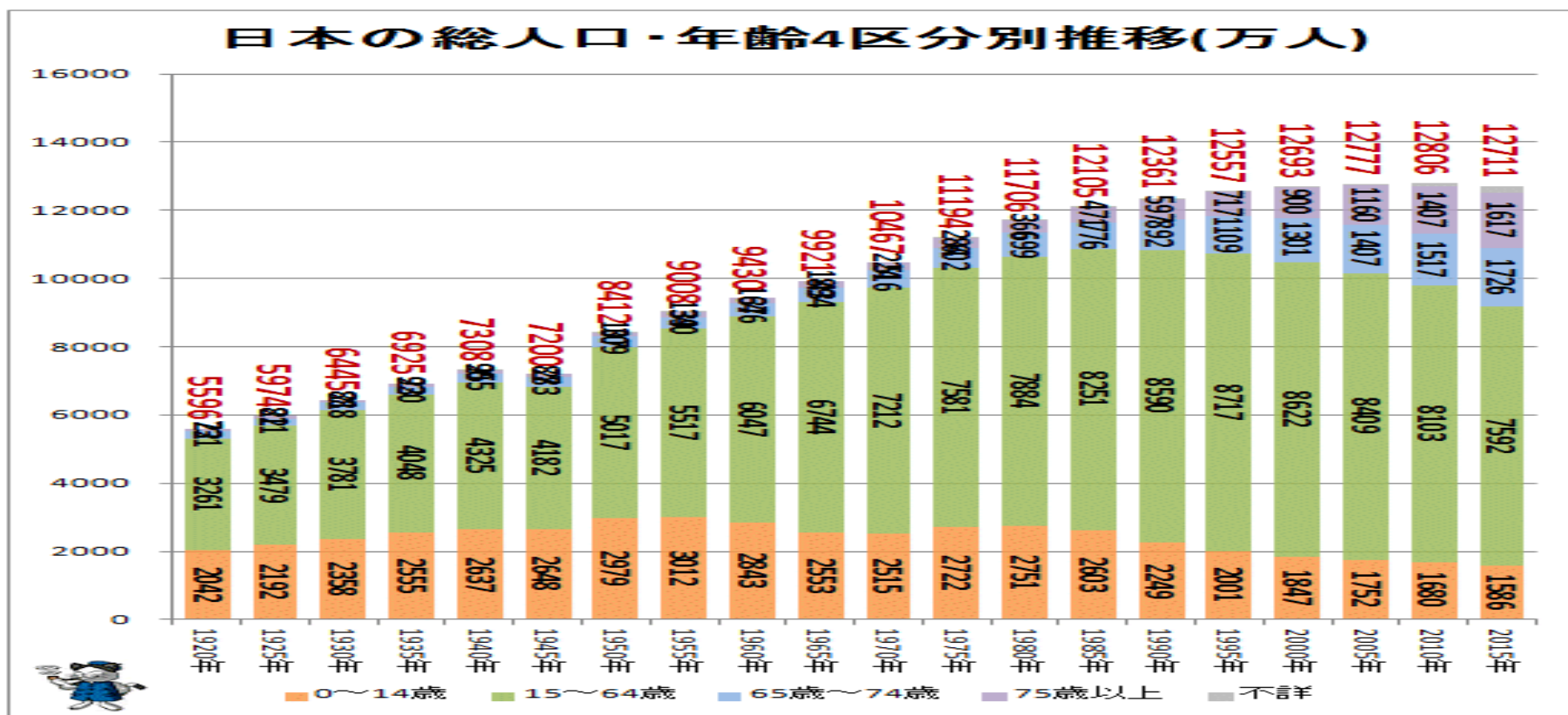
- 合計特殊出生率、出生数

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



## 2. 日本の少子化の要因

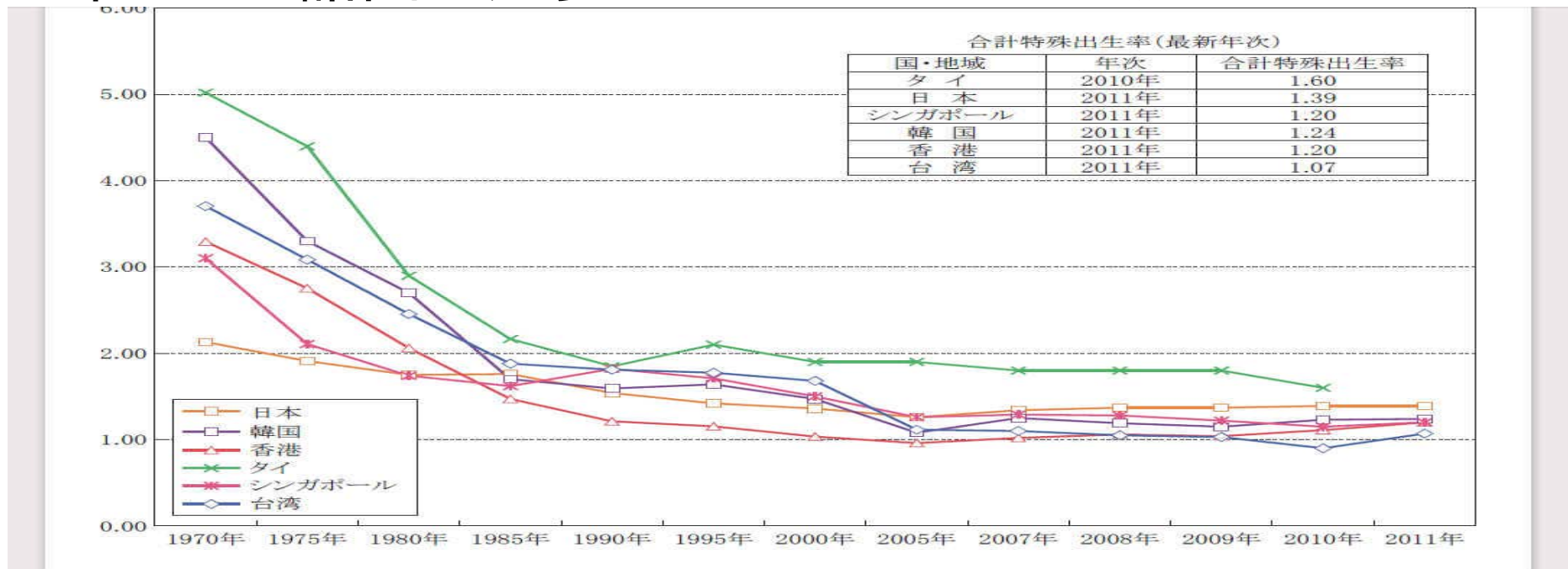
### 2-1. 日本の少子化の実態



## 2. 日本の少子化の原因

### 2-1. 日本の少子化の実態

#### 東アジア諸国の超少子化(アジア金融危機後、深刻化)



資料:United Nations "Demographic Yearbook"、WHO "World Health Statistics"、各国統計。

日本は厚生労働省「人口動態統計」。

注:台湾の1970年は1971年、1975年は1976年、1980年は1981年の数値。

タイの2005年は2004年の数値。



## 2. 日本の少子化の要因

### 2-1. 日本の少子化の実態

#### ① 結婚難から男女交際の不活発化

未婚率の上昇 1975-

男女交際率の低下 2000-

同棲率、婚外子率、極めて低いまま

#### ② 夫婦出生力低下

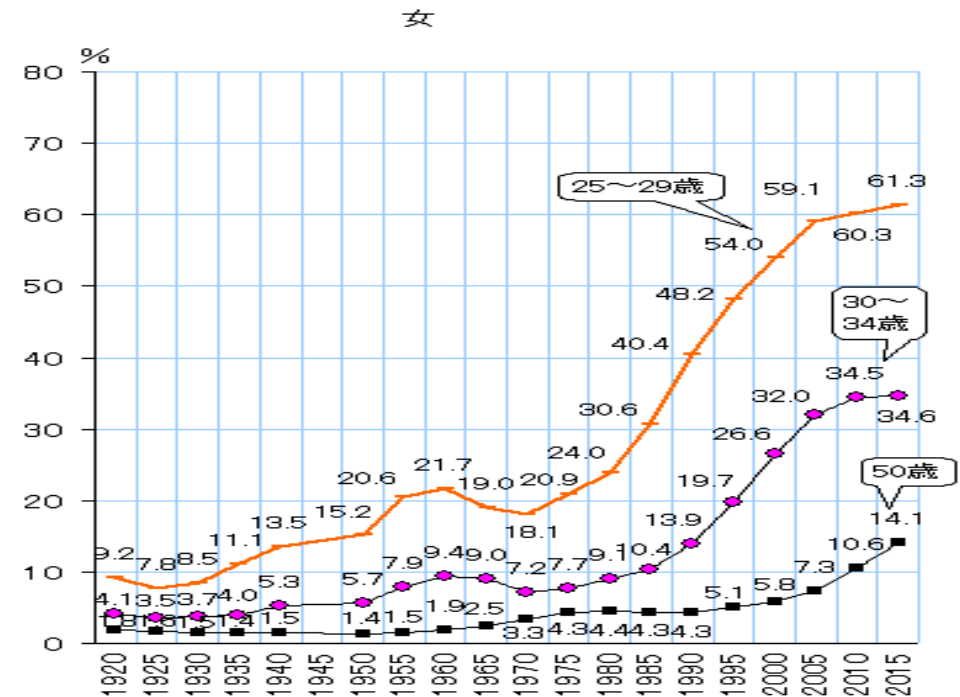
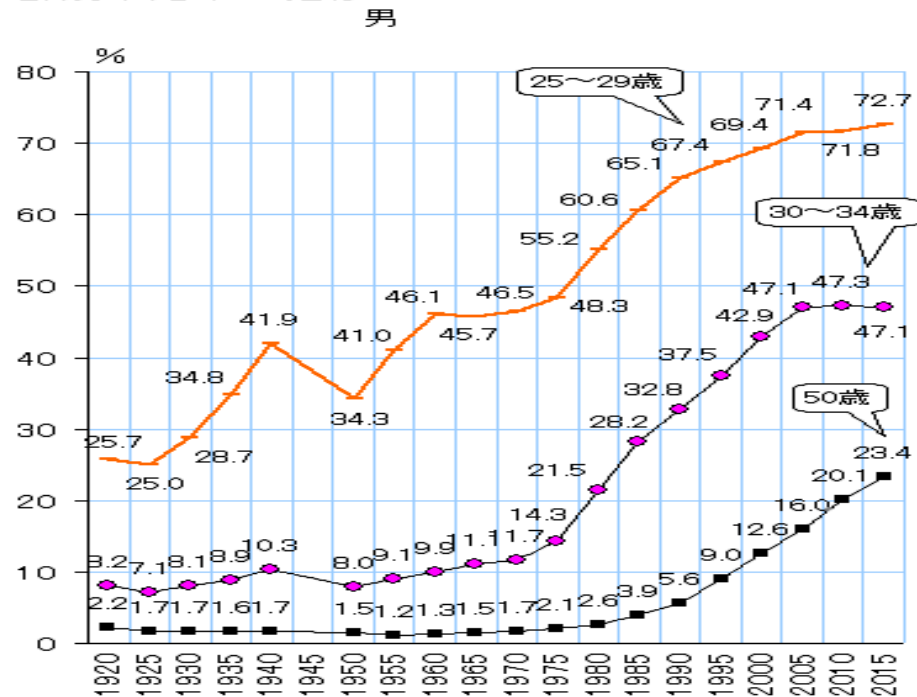
平均出生児数の減少 1990-

セックスレス率の増大 2000-

# 2. 日本の少子化の要因

## 2-1. 日本の少子化の実態

年齢別未婚率の推移



(注) 配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる(45~49歳と50~54歳未婚率の平均値)。

(資料) 国勢調査 (2005年以前「日本の長期統計系列」掲載)

- 表 独身者で交際相手をもつ率の変化 18歳-35歳
- (国立社会保障・人口問題研究所 出生力調査より 数字%)

	1992	1997	2002	2005	2010	2015
男性						
• 恋人あり(含む婚約者)	26.3	26.2	25.1	27.2	24.6	21.3
• 交際中異性の友人有り	19.2	15.3	11.3	14.0	9.4	5.9
女性						
• 恋人あり(含む婚約者)	35.5	35.4	37.0	36.7	34.0	30.2
• 交際中の異性の友人有り	19.5	15.9	12.4	12.9	11.9	7.7

## 恋愛の衰退3 性体験がある学生の減少

	1987	1993	1999	2005	2011	2017
<b>男性</b>						
高校生	11.5	14.4	26.5	26.6	14.6	13.6
大学生	46.5	57.3	62.5	63.0	53.7	47.0
<b>女性</b>						
高校生	8.7	15.7	23.7	30.3	22.5	19.3
大学生	26.1	43.4	50.5	62.2	46.0	36.7

- 日本性教育協会の調査より

## 2. 日本の少子化の要因

### 2-1. 日本の少子化の実態

#### ● 増えない婚外子

戦前 10%程度(明治時代20%)

事実上の一夫多妻(前近代的婚外子)

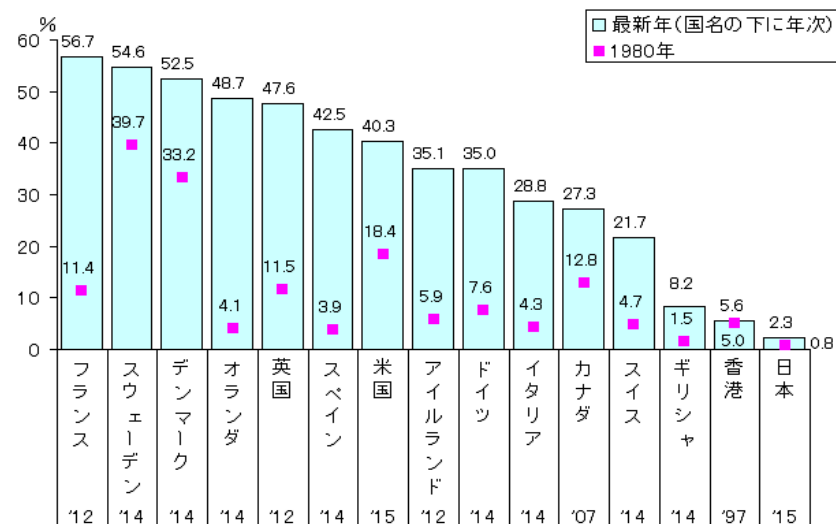
戦中・戦後で急減

「子どもにつらい思いをさせたくない」

が関わる

2000ー 2%前後で推移

世界各国の婚外子割合

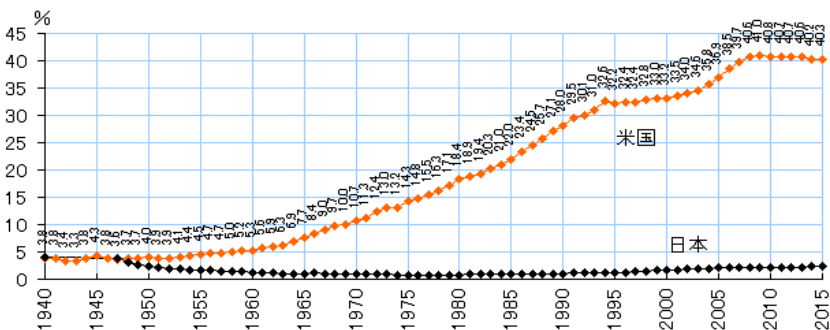


(注) 未婚の母など結婚していない母親からの出生数が全出生数に占める割合である。

1980年のフランス、ドイツ、香港は、それぞれ、大都市地域、西ドイツ、1980年のデータである。

(資料) EUROSTAT Fertility indicators、厚生省「人口動態統計」(日本)、米国商務省資料(カナダ)、国連 Demographic Yearbook Special Issues 1999 Natality Statistics(香港)

日米の婚外子(非嫡出子)割合の推移



(注) 米国の値のみ表示。日本の値は図録1518参照(厚生労働省「人口動態統計」による)

(資料) 米国商務省、The 2012 Statistical Abstract: Historical Statistics No. HS14

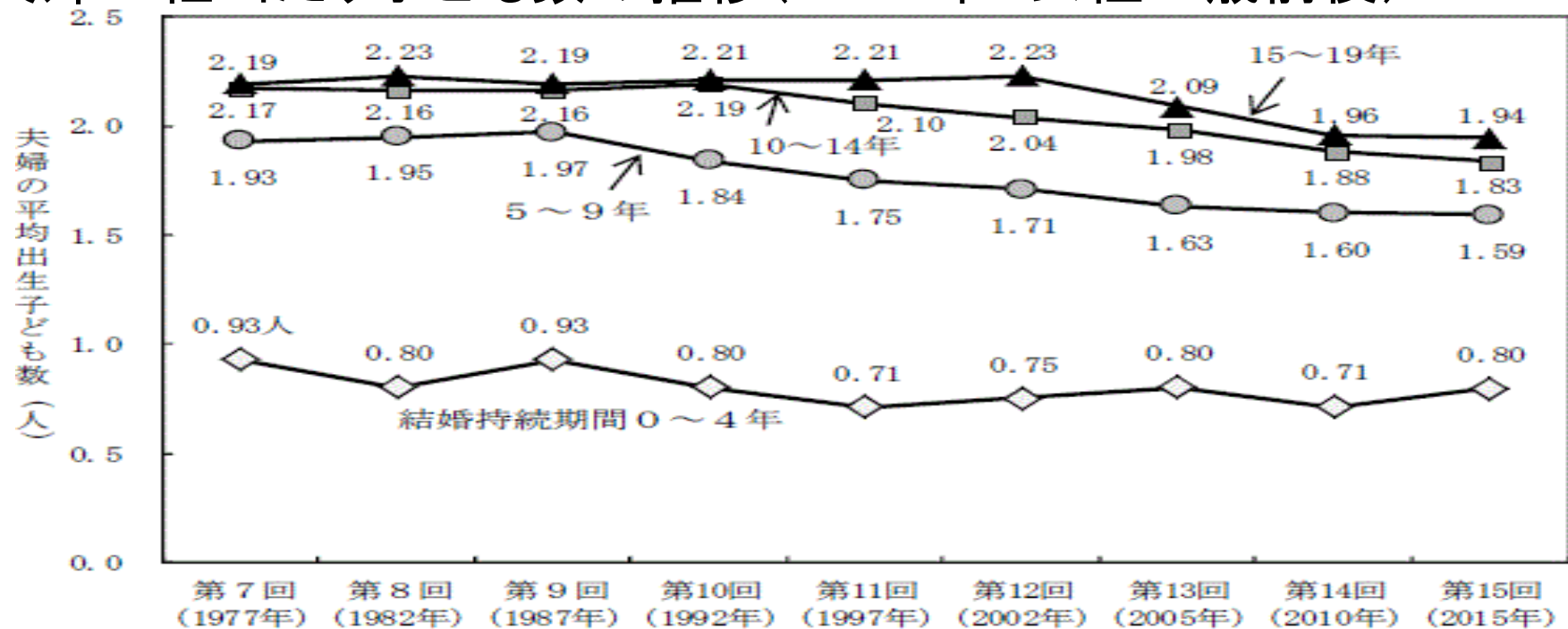
CDC, National Vital Statistics Report, Births: Final Data for 2011, Table C..

Final Data for 2014, Table B. ほか

## 2. 日本の少子化の要因

### 2-1. 日本の少子化の実態

- 夫婦一組当たり子ども数の推移(15-19年 女性45歳前後)

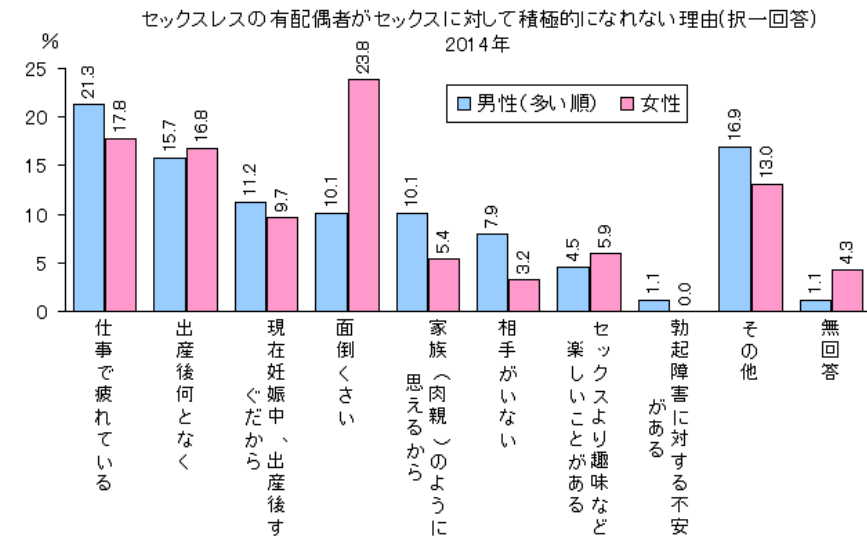
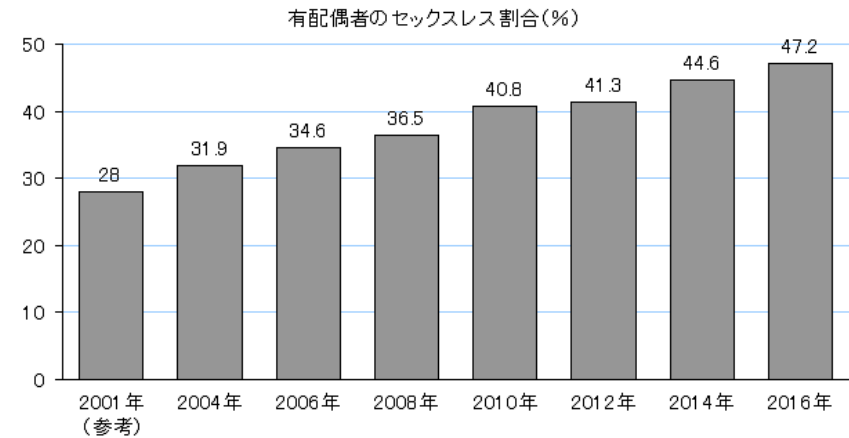


## 2. 日本の少子化の要因

### 2-1. 日本の少子化の実態

- 2000年以降のセックスレスの増大

セックスレス夫婦の動向



(注) セックスレス割合は「この1か月間は、セックス(性交渉)をしなかった」の回答率。2001年は朝日新聞インターネット調査「夫婦1000人に聞く」、2004～2016年は第2～8回「男女の生活と意識に関する調査」による。2016年の「第8回男女の生活と意識に関する調査」は全国の16～49歳男女3000人を対象に訪問留置方式で実施された(回収率46.8%)。

(資料) (株)日本家族計画協会

## 2. 日本の少子化の要因

### 2-2。結婚の二つの意味

- 結婚の二つの意味

- ① 経済的側面

経済的に新たな生活をスタートさせる

- ② 心理的側面

好きな人と一緒に暮らす

(同性結婚の場合も同じ ②が同性だけ)

現代日本社会

①の実現が困難になり、②の面も弱くなっている。



## 2. 日本の少子化の要因

### 2-2。結婚の二つの意味

- 経済的側面からみた結婚 生活水準の変化を伴うイベント
  - ① 独身時代の生活と比べて、結婚後の生活がよくなるかどうか
  - 生活レベルの落ちる結婚はしたくないという意識
  - ② 自分が育った以上の環境を、子どもに提供できるかどうか
  - 子どもにつらい思いをさせたくないという意識
- \* 世間体意識が強い日本では、特に②の側面が重要である。

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### • 結婚難の構図

\* ー1980年頃まで

結婚すれば、「今以上」、「親以上」の生活が期待できた

子どもを自分以上に育てることができた

\* 1990年以降

結婚しても、「今以上」、「親以上」の生活が送れないかも、  
という不安、

子どもを自分以上に育てられないという不安 強まっている

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### 《1980年頃まで結婚が容易にできた理由》

① 経済的な心配はなかった

② 出会いが容易だった

③ 恋愛へのあこがれがあった

✓ 恋愛にあこがれて、好きな人と出会って、「男が主に仕事、  
で豊かな生活」可能な経済条件があった

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### 《1980年代まで結婚が容易にできた理由①》

- ✓ 若者男性 正社員か自営業者の跡継ぎ
- ✓ 正社員は終身雇用、年功序列賃金
- ✓ 自営業は、政府によって保護
- \* 若年男性の稼ぐ収入 安定して増える見通し→ 結婚に当たっ  
ての経済的心配は不要

若年男性の経済格差 ほとんどない 平等社会

「男が主に仕事で豊かな生活」可能 女性は相手が誰でも経済的な  
側面では安心して専業主婦になれた

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

《1980年代まで結婚が容易にできた理由②》

#### ✓ 男女交際 自然な出会いと見合い

(自ら活動しなくても結婚相手候補に出会えた)

#### 恋愛結婚の半数 — 職場結婚

(男女とも正社員、身近に未婚異性が多い、社内サークル)

ゆっくり相手と親しくなる時間的余裕があった

見合い 男性の経済格差あまりない—妥協できる

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

《1980年代まで結婚が容易にできた理由③》

#### ✓ 恋愛へのあこがれ

欧米や日本のテレビ・ドラマで、楽しい恋愛が描かれ、自分もそのような恋愛結婚ができるのではとの期待

親は、「見合い結婚」だから、仲良くない夫婦と思えた。だけど、自分が恋愛結婚したら、ラブラブの夫婦になれると信じてきた。

「あこがれ」だから、見合いでも諦められた

## 2. 少子化の日本の特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

\* 1990年代以降、中流転落不安

- 日本人は「生活リスクー中流生活から転落する可能性」を大変嫌う
- 子どもに豊かな生活や十分な教育を保障したいから、それが実現しないリスクが高いと思えば、結婚しない、子どもをもたない、子ども数を少なくするという選択がとられる。

理由 ① 豊かな経済環境で育った子が成人し、親と同居している

→ 自分以上の経済、教育環境のハードルが上がる

② 格差社会 若年男性の経済格差拡大

→ 収入が子どもにお金をかけるには十分ではない男性増える

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### 《近年の未婚化の理由》

① 経済的な不安

② 出会いの減少

③ 恋愛へのあこがれ消失

- ✓ 恋愛へのあこがれが低下し、未婚の異性が周りにいないし、「男が主に仕事で豊かな生活」を送る見通しが無い



## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### 《近年の未婚化の理由① 経済不安》

##### A 若者(特に男性)の経済力低下

若年男性 経済格差が拡大

##### B 男性が経済的に扶養するものという意識

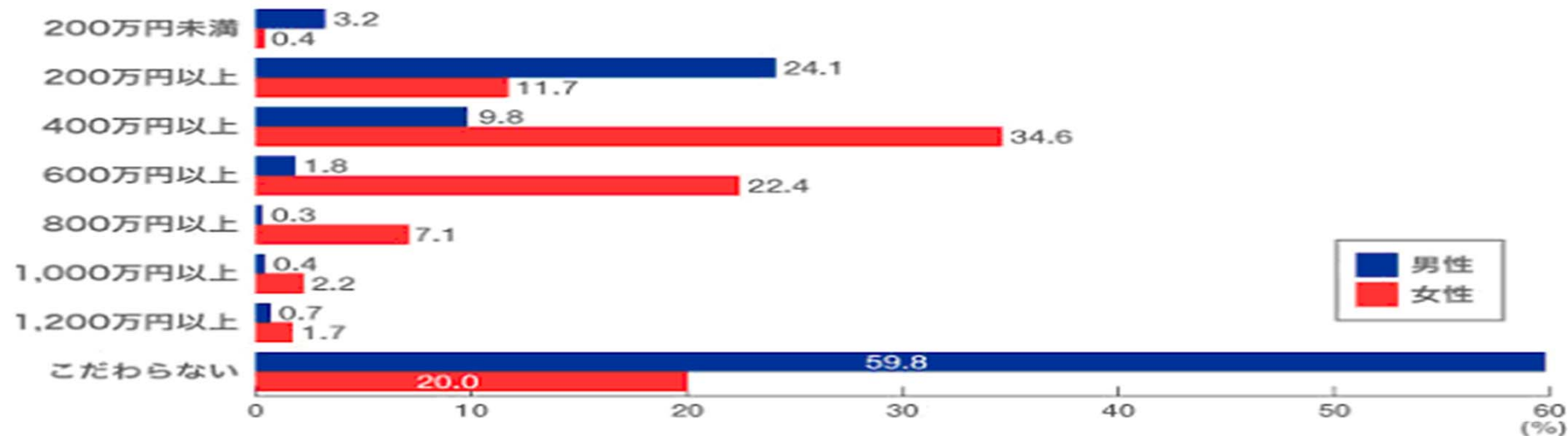
(専業)主婦志向が強い

##### C 親と同居していつまでも待てる

パラサイト・シングル

## 結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較

### 結婚相手に望む年収



### 現実の未婚男性の年収



出所：明治安田生活福祉研究所・「生活福祉研究」号。データは2009年の「結婚に関する調査」（全国ネット20～39歳、4120名の未婚者が回答）

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### 《近年の未婚化の理由② 出会いの減少》

現実に自然な出会いが減少

正社員の長時間労働(若年正社員労働時間増大)

非正規化(入れ替わり激しく、正社員との交流なし)

長期間、ゆとりをもって親しくなる機会の減少

(未婚正社員数減少、全員加入の若者組織崩壊 — 社内サークル、青年団、労働組合青年部)

\* シャイな若者 出会う機会がない

## 2. 少子化の日本的特徴

### 2-3. 日本の結婚難の構図

#### 《未婚化理由③ 恋愛へのあこがれ消失》

##### A 恋愛(結婚) 楽しいモデルがない

- \* 恋愛結婚してるはずの親 ラブラブではない
- \* 恋人がいる人へのやっかみ、

##### B 恋愛 コストになる

- \* 恋愛するのが面倒、(4割が恋人ほしくない)
- \* 恋愛はお金や時間の無駄

#### 交際意欲の低下

# 暫定的結論

- 子どもに惨めな思いをさせたくない という意識が続き
- **子どもの経済・教育環境は親が整えなくてはならない** という現状が続き、
- 若年男性の経済格差が拡大したままで、
- **男性が主に家計を支えるという意識が続いたままで**
- 特に親が未婚の若者を経済的に支えており、
- 大きな経済成長が望めない限り  
日本の若者は子どもを多く産み育てようとは思わない。

コロナ渦 この傾向を増幅させる可能性がある

### 3. このまま進むと

- 親同居未婚者の中高年化 **20年後の最大の問題**

(都の審議会で発言したら、ある都議から「地元の人から、未婚中年の息子や娘が同居しているけど、将来どうしたらよいか」相談されたと発言)

2015年 35-44歳の中年親同居未婚者、**約300万人**

今はよいけれども――、親が亡くなった後どうなるのか？

誰も分からない ― 今まで前例がないから

経済的問題

心理的問題

### 3. このまま進むと

- 対策はあるのか

二つの対策が必要

- ① 若者に結婚しやすい条件を整える

「経済的安心」どんな仕事についていても、誰と結婚して子どもを育てても、将来中流生活が送れる保証を

- ② 中高年独身者が生活できる条件を整える

中高年独身者の居場所作り

(中高年婚活、グループホーム)

ご清聴ありがとうございました



山田昌弘

日本の少子化対策は  
なぜ失敗したのか？  
結婚・出産が回避される本当の原因



光文社新書

「もっと早く、  
せめて団塊ジュニアが結婚、  
出産期に入るまでに  
手が打たれていれば……」

- 欧米の慣習や価値意識をモデルの前提としてしまった
- 日本の若者の本音に目を向けず、切実な現実をスルーした
- お金がかかることには動きが鈍く、触れたがらない政府